10分で学ぶ古文シリーズ

古典文法速習

《助動詞》

（練習問題つき）

○助動詞とは

↑説明ページ

例　花が咲く

①

③過去（～た）

花が咲きけり。

②

連体形

花が咲きける時、

打消（～ない）

花が咲かず。

未然形

已然形

花が咲かねども、

助動詞とは

① 原則**動詞の下に付き**、その動詞の活用形を変える。

② それ自身**活用する**。

③ 過去や打消などの**意味を付け加える**。

覚えるべきことは以下の３点！！

①（上との）接続〈例　未然形〉

②　活用表

③　意味〈例　過去〉

⓪「ず」

・接続＝〔　　〕

・活用表

未	用	止	体	已	命
ず	ず	ず	ぬ	ね	○
ざら	ざり	○	ざる	ざれ	ざれ

・意味＝〔　　〕（――ない）

例　夏果てて、秋の来るにはあらず。

【練習問題】

問　各文中の助動詞「ず」を抜き出して、その活用形を書きなさい。

（1）人目も、今はつつみ給はず、泣き給ふ。

（2）風波やまねば、なほ同じところにあり。

（3）京には見えぬ鳥なれば、みな人知らず。

（4）鳥は林を願ふ。鳥にあらざれば、その心を知らず。

①「る」「らる」

・接続＝〔　　〕

「る」（四段・ナ変・ラ変の未然形）　「らる」（その他の動詞の未然形）

・活用表

る

未	れ
用	れ
止	る
体	るる
已	るれ
命	れよ

らる

未	られ
用	られ
止	らる
体	らるる
已	らるれ
命	られよ

・意味

1〔　　〕（――（さ）れる）

例　ありがたきもの、舅にほめらるる婿。

2〔　　〕（お――になる／――なさる）

例　上人、馬をひき返して逃げられけり。

3〔　　〕（自然と――する）

例　人知れずうち泣かれぬ。

4〔　　〕（――できる）

例　変はりゆくありさま目もあてられず。

（現代語では）

友達に笑われる。

先生が話される。

子供のことが案じられる。

忙しくて行かれない。

意味を識別する目安

1. 「受身」…㊀が㊁に――される　　例　ありがたきもの、勇にほめらるる婿。

2. 「尊敬」の可能性は最後に考える。

3. 「自発」…〔　　・　　・嘆く・　待つ　〕＋（ら）る　の場合、自発が多い。　　例　人知れずうち泣かれぬ。

4. 「可能」…下に〔　　〕や反語をともなう時、可能が多い。　　例　変はりゆくありさま目もあてられず。

2. 「尊敬」は、前述のものではなく、

ⅰ. 主語が〔　　〕であることが多い。　例　上人、馬をひき返して逃げられけり。

ⅱ. 尊敬の動詞とともに使用されることが多い。　⇔　後に尊敬語をともなわない。

〔　　〕・〔　　〕　　――（ら）れ＋尊敬語

例　今加へたる家司に、おほせらる。　　☞（給ふ・おはす　等）

【練習問題】

問一　次の括弧に、下に示した助動詞を、適当に活用させていれなさい。（例）人に思は（れ）むほど・・・〔る〕

（1）狐に食は（　　）。〔る〕　　（2）涙もとどめ（　　）ず。〔らる〕

（3）心劣りせ（　　）ことあり。〔らる〕　　（4）あまたたび遣らは（　　）ど・・・〔る〕

（5）つゆまどろま（　　）ず。〔る〕　　（6）涼しからむ所求め（　　）！〔らる〕

問二　傍線部の助動詞「る」「らる」の文法的意味を答えなさい。

（１）ありがたきもの、舅にほめらるる婿。　（２）今加へたる家司に、おほせらる。

（３）人知れずうち泣かれぬ。　（４）抜かんとするに、おほかた抜かれず。

（５）家居にこそ、ことざまは、推し量らるれ。　（６）恐ろしく覚えければ、我にもあらでつい居られぬ。

②「す」「さす」「しむ」

・接続＝〔　　〕

「す」（四段・ナ変・ラ変の未然形）　「さす」（その他の動詞の未然形）

「しむ」（すべての動詞の未然形　※主に漢文訓読文や和漢混交文に用いられる）

・活用表

	す	さす
未	せ	させ
用	せ	させ
止	す	さす
体	する	さする
已	すれ	さすれ
命	せよ	させよ

	しむ
未	しめ
用	しめ
止	しむ
体	しむる
已	しむれ
命	しめよ

・意味

1〔　　〕（――せる、――させる）　例　（かぐや姫を）妻の嫗に預けて養はす。

2〔　　〕（お――になる、――なさる）　例　月の都の人まうで来ば、捕らへさせむ。いみじうおどろかせ給ふ。

「使役」と「尊敬」の見分け方

ⅰ．――（さ）せ＋尊敬語（給ふ・おはす　など）　の形になっている場合「尊敬」になることが多い。

しめ

（９０％　尊敬

１０％　使役（特に上に「㊥に」「㊥を」があれば要注意！）

ⅱ．ⅰの形になっていない場合　→ほぼ１００％「使役」

【練習問題】

問一　次の括弧に、下に示した助動詞を、適当に活用させて入れなさい。

（例）降り（させ）て…　　↑〔さす〕

（１）伝へ（　　）ど…。　↑〔さす〕　（２）食は（　　）事なし。　↑〔す〕

（３）受け（　　）むとて…↑〔さす〕　（４）笑は（　　）給ふ。　↑〔す〕

（５）習は（　　）む。　↑〔しむ〕　（６）我に得（　　）！　↑〔しむ〕

問二　次の文中の括弧の中に助動詞「す」または「さす」を活用させて入れ、さらにその意味を書きなさい。

（1）月の都の人まうで来ば、捕らへ（　　）む。

（2）いと、こまやかに、ありさまを問は（　　）給ふ。

（3）大井の土民におほせて、水車を造ら（　　）られけり。

③「き」「けり」

「き」

・接続＝〔　　〕

・活用表

未	用	止	体	已	命
せ	○	き	し	しか	○

※カ変・サ変の動詞には、次のように、特殊な接続な仕方をする。

カ変の未然形「来（こ）」

…来し（こし）・来しか（こしか）

カ変の連用形「来（き）」

…来し（きし）・来しか（きしか）

サ変の未然形「せ」…せし・せしか

サ変の連用形「し」…しき

×来き・しし

・意味＝〔　　〕（――た）

体験にもとづく過去

例　鬼のやうなるもの出で来て殺さむとしき。

「けり」

・接続＝〔　　〕　・活用表

未	用	止	体	已	命
○	○	けり	ける	けれ	○

・意味

1〔　　〕（――た、――たということだ）**伝聞にもとづく**過去

例　今は昔、竹取の翁といふものありけり。

2〔　　〕（――たなあ、――ことだなあ）例　うつつにも夢にも人にあはぬなりけり

※主に和歌や会話文の中で用いられ、過去に訳せないときのみ、この意味になる。

【練習問題】

問一　次の括弧に、助動詞「き」を適当な形に直して入れなさい。

（1）この所に住みはじめ（　①　）ときは、あからさまと思ひ（　②　）ども、今すでに五年を経たり。

（2）死に（　③　）子、顔よかり（　④　）。

問二　次の文から助動詞「けり」を抜き出し、その意味と活用形を答えなさい。

（1）死にければ、陣の外に、引き捨てつ。

（2）人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香に匂ひける

（3）暗けれど、主を知りて、とびつきたりけるとぞ。

④「つ」「ぬ」

・接続＝〔　　〕

・活用表

つ

未	て
用	て
止	つ
体	つる
已	つれ
命	てよ

ぬ

未	な
用	に
止	ぬ
体	ぬる
已	ぬれ
命	ね

・意味

1〔　　〕（――てしまう、――た）

例　年ごろ思いつること、果たしはべりぬ。

例　黒き雲にはかに出で来ぬ。

2〔　　〕（きっと――、たしかに――）

例　龍あらば、ふと射殺して、首の玉は取りてむ。

例　風吹きぬべし。

※後に推量の助動詞（む・べし等）がつくことが多い。

※「つ」と「ぬ」の違い

「つ」は主に人為的・作為的な動詞（他動詞）に接続する。

「ぬ」は主に自然推量的・無作為的な動詞（自動詞）に接続する。

◎　公式（以下の場合の傍線部は接続が連用形の時必ず完了（強意）になる）

・てき、てけり、てけむ（完了「つ」の連用形）
・にき、にけり、にけむ（完了「ぬ」の連用形）
・てむ、てまし（強意・完了「つ」の未然形）
・なむ、なまし（強意・完了「ぬ」の未然形）
・つべし（強意・完了「つ」の終止形）
・ぬべし（強意・完了「つ」の終止形）

てむ・てき・てけり　の「て」は完了
なむ・にき・にけり　の「な」「に」完了
てば・なば・てばや・つべし・ぬべし
てまし・なまし　みな完了

【練習問題】

問一　次の括弧に、下に示した助動詞を、適当に活用させて入れなさい。

（例）濡らし（　て　）む。　↑［つ］

（1）取り（　　）けり。　↑［つ］　（2）のたまひ（　　）ど、　↑［つ］
（3）いひ（　　）こと。　↑［つ］　（4）なり（　　）こと。　↑［ぬ］
（5）浦を去り（　　）！　↑［ぬ］　（6）落ち（　　）べし。　↑［ぬ］

問二　各文中の、助動詞「つ」「ぬ」を抜き出し、活用形を書きなさい。ただし、一つとは限らない。

（1）翁の申さむことは、聞き給ひてむや。　（2）暮れぬれば、参りぬ。
（3）いみじう、久しうもなりにけるかな。　（4）うぐいすの、鳴きつる枝を、折りてけるかな。

⑤「たり」「り」

・接続＝「たり」〔　　〕　「り」〔　　〕

・活用表

たり

未	たら
用	たり
止	たり
体	たる
已	たれ
命	たれ

り

未	ら
用	り
止	り
体	る
已	れ
命	れ

・意味

1〔　　〕（――てしまう、――た）　例　野より出で来たり。

その内騒ぎあへり。

2〔　　〕（――している）　例　雲の細くたなびきたる。

物思へる気色なり。

※「たり」は、「てあり」がつづまったもの、「り」は、「あり」がつづまったもの。

【練習問題】

問一　各文中の、括弧の助動詞「たり」「り」を、適当な活用形に改めて書きなさい。

（1）土の山より、落ち（たり）水なり。

（2）道知れ（り）人もなくて、まどひ行きけり。

（３）舟子・かぢとりは、……何とも思へ（り）ず。　（４）目のさめ（たり）むほど、念仏し給へ。
（５）物、食はせ（たり）ど、食はねば……。　（６）われ、ものの心知れ（り）しより、四十余り…。

問二　各文中の、助動詞「たり」「り」を抜き出し、活用形を書きなさい。

（１）あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。　（２）生けらむほど、武に誇るべからず。
（３）世を知れれば、願はず、走らず。　（４）稲荷に詣でたらましかば、かからずやあらまし。

⑥「む」「むず」

・接続＝〔　　〕

※「むず」は「むとす」のつづまったかたちであり、盛んに用いられたのは鎌倉時代以降である。

・活用表

む

未	（ま）
用	○
止	む
体	む
已	め
命	○

むず

未	○
用	○
止	むず
体	むずる
已	むずれ
命	○

・意味

1〔　　〕（――よう、――つもりだ）　例　人より先に聞かむ。

2〔　　〕（――だろう）　例　いかにもののあはれもなからん。

3〔　　〕（――のがよい、――ようよ）　例　花を見てこそ帰り給はめ。

4〔　　〕（もし――ならば）　例　銭あれども用ひざらむは全く貧者と同じ。

5〔　　〕（――のような）　例　心あらん友もがな。

◎「む」の意味の見分け方

①　――む。

※文末に用いられる時

推量　↑三人称がほとんど

意志　↑一人称がほとんど

適当・勧誘　↑二人称がほとんど

☆「適当・勧誘」の場合は「こそ――め・――なむ・――てむ」「こそ――むずれ」の形をとることが多い。

②　――む――

※文中で連体形の時

仮定　↑「む」＋助詞（「――むに」「――むは」「――むには」）

婉曲　↑「む」＋名詞

【練習問題】

問一　各文中の、助動詞「む」「むず」を抜き出し、その活用形を書きなさい。

（1）なぞの犬の、かく久しう鳴くにかあらむ。　（2）いづちもいづちも、足の向きたらむ方へ往なむず。

（3）命ながくとこそ、思ひ念ぜめ。　（4）ただいま、客人の来うずるぞ。

（5）わ殿ばらは、重忠がやうなるものにこそ助けられんずれ。

問二　傍線部の助動詞の文法的意味・活用形を書きなさい。

（1）をとこは、この女をこそ得[A]め、と思ふ。　（2）とくこそ、試みさせ給は[B]め。

（3）いかやうなる心ざしあら[C]む人にか、あは[D]むと思す。　（4）ただ、都の外へぞ、出だされ[E]んず。

⑦「らむ」「けむ」

「らむ」

・接続＝〔　　〕※ラ変型は〔　　〕

・活用表

未	用	止	体	已	命
○	○	らむ	らむ	らめ	○

「む」「らむ」「けむ」の時制の違い

時間の流れ →

未来　（主に未来の）「む」　推量

現在　「らむ」現在推量

過去　「けむ」過去推量

※　時制の違いを除けば、意味は同じ

・意味

1〔　　〕（今ごろ――ているだろう）

例　憶良らは今はまからむ、子泣くらむ。

2〔（現在の）原因推量〕（どうして――ているのだろう、――ので…ているのだろう）

例　などや苦しき目を見るらむ。

3〔（現在の）婉曲、伝聞〕（――ているような、――とか言っている）

例　おぼすらむこと何事ぞ。

「けむ」

・接続＝〔　　〕

・活用表

未	用	止	体	已	命
○	○	けむ	けむ	けめ	○

・意味

1〔　　〕（――しただろう）

例　あれは、ただ人にこそありけめ。

2〔（過去の）原因推量〕（どうして――したのだろう、――ので…したのだろう）

例　沼田太郎、かなはじとや思ひけむ、

3〔（過去の）婉曲、伝聞〕（――したような、――したとかいう）

例　増賀ひじりのいひけむやうに、

【練習問題】

問一　空欄に、（1）～（6）の動詞を、適当な活用形に改めなさい。ただし（6）はひらがなで答えること。

（1）書く　（　　）む（　　）らむ（　　）けむ　（2）見る　（　　）む（　　）らむ　（　　）けむ

（3）助く　（　　）む（　　）らむ（　　）けむ　（4）往ぬ　（　　）む（　　）らむ　（　　）けむ

（5）あり　（　　）む（　　）らむ（　　）けむ　（6）来　（　　）む（　　）らむ　（　　）けむ

問二　各文中の助動詞「む」「らむ」「けむ」をすべて抜き出し、その文法的意味と活用形を書きなさい。

（1）向かひゐたりけんありさま、さこそ異様なりけめ。　（2）「まかりなむ」とばかりこそ、いふらめ。

（3）なにごと思ひたまふぞ。思すらむこと、なにごとぞ。

問三　傍線部分を、助動詞「らむ」「けむ」に注意して、現代語訳しなさい。

（1）龍田山、夜半にや君が、ひとり越ゆらむ。

訳　龍田山をこの夜ふけに、あなたひとりで〔　　〕。

（2）今日こそは、神代のことを思ひいづらめ。

訳　今日こそは、神代の昔のことを〔　　〕。

（3）いかがしけむ、疾き風吹きて、舟を吹きてもてありく。

訳〔　　〕、早い風が吹いて、舟を吹いて持ってまわる。

（4）家の中出で初めけむほどは、さこそはおぼえけめ。

訳（みんな）家から宮仕えに出始めたころは、そのように〔　　〕。

⑧「べし」

・接続＝〔　　〕※ラ変型は〔　　〕

・活用表

未	用	止	体	已	命
（べく）べから	べく　べかり	べし	べき　べかる	べけれ	○

・意味

1〔　　〕（――よう、つもりだ）　例　この一矢に定むべし。

2〔　　〕（――だろう）　例　風吹きぬべし。

3〔　　〕・勧誘〕（――のがよい）　例　濁れる酒を飲むべくあるらし。

4〔　　〕・義務〕（――はずだ、――べきだ）　例　いふべき事ありて文をやる。

5〔　　〕（――せよ）　例　よく見て参るべきよしのたまふ。

6〔　　〕（――できる）　例　羽なければ、空をも飛ぶべからず。

【練習問題】

問一　次の括弧に、助動詞「べし」を適当に活用させて入れなさい。

（１）恋しかる（　　）夜半の月……　（２）聞く（　　）けり。
（３）覚えぬよしを啓す（　　）ど……。　（４）この海にも劣らざる（　　）。
（５）風やむ（　　）もあらず。　（６）堂塔をも立つ（　　）ず。
（７）通ふ（　　）める透垣の戸……。

問二　次の傍線部助動詞「べし」の意味を答えなさい。
（１）恐れの中に恐るべかりけるは、ただ地震なりけり。（２）高綱、この御馬で宇治川の真先渡し候ふべし。
（３）今日は、日暮れぬ。勝負を決すべからず。　（４）家の作りやうは、夏をむねとすべし。
（５）風波、とみにやむべくもあらず。

⑨「まし」

・接続〔　　〕
・活用表

未	用	止	体	已	命
ましか	○	まし	まし	ましか	○

・意味

1〔　　〕（もし仮に――としたならば…であろうに**《でも現実は違う》**）

例　稲荷に詣でたらましかば、かからずやあらまし。

※「まし」が反実仮想の意味になるときは、以下の形ででてくることが多い。

――ましかば（ませば）、
――せば、
――（未然形）ば、
…まし　例　鏡に色・形あらましかば、映らざらまし。

2〔　　〕（――しようかしら…**《でも無理かな》**）

例　これに何をかかまし。　**※現実には不可能かもしれないことを前提にする**

※上に疑問表現（＝疑問詞または「や」「か」）をともなう。→すべて連体形

3〔希　望〕（できれば――したかった…、――すればよかった…）

例　かはづ泣く井出の山吹散りにけり花のさかりにあはましものを**※実現しなかったことに対して使う。**

4〔（単なる）推量〕（――だろう）　**※鎌倉時代以降に用いられる。**

【練習問題】

問　次の傍線部を現代語訳しなさい。

（1）松虫の、声するかたに、宿や借らまし。 訳　松虫の声がするので、（　　）。

（2）笑ひなましかば、不用ぞかし。 訳（　　）むだになるところだったよ。

（3）昼ならましかば、のぞきて、見奉りてまし。 訳（　　）のぞいて、見もうしあげたのに。

（4）いづこに、こもり侍らまし。 訳　どこに、（　　）。

⑩「めり」「なり」

「めり」

・接続＝〔　　〕

※ラ変型は連体形

・活用表

未	用	止	体	已	命
○	○	めり	める	めれ	○

・意味

〔　　（推量）〕（――ようだ、――らしい）　例　すだれ少し上げて、花奉るめり。

※「めり」は「見あり（目あり）」がつづまった形であることから〔　　〕とよばれたりもする。

「なり」

・接続＝〔　　〕

※ラ変型は連体形

・活用表

未	用	止	体	已	命
○	○	なり	なる	なれ	○

「伝聞」と「推定」の意味の見分け方

「なり」の上に音を表す言葉があるか

◎ ↓ 推定（例　鳴る・打つ・琴）

× ↓ 伝聞

・意味

1〔　　〕（――とかいう、――そうだ、――と聞く）

例　奥山に猫またといふものありて、人を食ふなる。

2〔　　〕（――ようだ、――らしい）

例　秋の野に、人まつ虫の声すなり。

※「なり」は「音あり」がつづまった形であることから〔　　〕とよばれたりもする。

【練習問題】

問一　各文中の「めり」を抜き出し、その活用形を書きなさい。

（1）花やすすき、君がかたにぞなびくめる。　（2）いまいまも、さこそは侍るべかんめれ。

（3）あゆみ来めるは、兵衛佐なめりと思へば、

問二　各文中の「なり」（伝聞推定）を抜き出し、文法的意味・活用形を書きなさい。

（1）唐詩に「日望めば都遠し」などいふなる言のさまを聞きて、

（2）この十五日になむ月の都よりかぐや姫を迎へにまうで来なる。

（3）秋の野に人まつ虫の声すなり。

☆撥音便の無表記☆

「なり」「めり」「べし」の上にラ変型の連体形が接続するとき、特殊な形で登場することがある。

①　撥音便化

あるめり　　あんめり
高かるめり　　高かんめり
べかるめり　　べかんめり
ざるめり　　ざんめり

※発音しやすいように「る」音が「ん」に変わることを「**撥音便**化」するという。よって、下の「あん」「高かん」「べかん」「ざん」は全て連体形になる。

②　撥音便の無表記化

あんめり　　あめり
高かんめり　　高かめり
べかんめり　　べかめり
ざんめり　　ざめり

※撥音便の「ん」は表記されない場合が多い（実際には発音する）ので、実際は「あるめり」「高かるめり」「べかるめり」「ざるめり」であると判断できなければならない。

べし　　べし
―a＋めり　　―a る＋めり
なり　　なり

例　駿河国にあなる山の頂にもてつくべきよし仰せ給ふ。
願はしかるべきことこそ多かめれ。

【練習問題】

問一　各文中の、断定の助動詞「なり」を抜き出し、その活用形を書きなさい。

（1）うつつにも、夢にも人に、あはぬなりけり。

（2）子になり給ふべき人なめり。

（3）人、木石にあらねば、……物に感ずること、なきにあらず。

問二　各文中の線部を助動詞「なり」に注意して現代語訳しなさい。

（1）誰が車ならむ。見知り給へりや。

訳　誰の〔　　〕。知っておられますか。

（2）物語するさまこそ、何事にかあらん、尽きすまじけれ。

訳（男女が）おしゃべりをしている様子は、〔　　〕、つきることもなさそうだ。

（3）人々の声あまたして、来る音すなり。

訳　人の声がたくさんして、（みんなの）来る〔　　〕。

⑪「なり」（断定）

・接続＝「なり」〔　　、　　、助詞、副詞〕

・活用表

未	用	止	体	已	命
なら	なり に	なり	なる	なれ	なれ

「なり」の連用形「に」は
——に ○○
（○〜3文字）
あり
侍り・候ふ
おはす・おはします
の形になることが多い。

・意味

1〔　　〕（——である、——だ）　例　父はなほ人にて、母なむ藤原なりける。

2〔　　〕（——にある、——にいる）　例　天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山に出でし月かも

⑫「じ」「まじ」

・接続＝「じ」〔　　〕　「まじ」〔　　〕※ラ変型は連体形

・活用表

じ

未	用	止	体	已	命
○	○	じ	じ	じ	○

まじ

未	用	止	体	已	命
○ まじから	まじく まじかり	まじ ○	まじき まじかる	まじけれ ○	○

・意味

「じ」（↑打消の「む」）

1〔　　〕（――ないだろう）　例　月ばかりおもしろきものはあらじ。

2〔　　〕（――つもりはない、――たくない）　例　京にはあらじ。

3〔不適当〕（↑打消の適当・――するのはよくない）　例　かくやあやしき物参るやうはあらじ。

「まじ」（↑打消の「べし」）

1〔　　〕（――ないだろう）　例　秋にはをさをさ劣るまじけれ。

2〔　　〕（――つもりはない、――たくない）　例　ただ今は見るまじとて、

3〔不適当〕（↑打消の適当・――ないほうがよい）　例　妻こそ、男の持つまじきものなれ。

4〔　　〕（――べきでない／はずがない）　例　さる人あるまじければ、

5〔禁止〕（↑打消の義務・命令・――てはいけない）　例　人に漏らさせ給ふまじ。

6〔　　〕（↑打消の可能・――できそうにない）　例　えとどむまじければ、

【練習問題】

問　各文中の、助動詞「じ」「まじ」を抜き出して、その文法的意味と活用形を書きなさい。

（1）えとどむまじければ、ささし仰ぎて、泣きをり。

（2）今は世にあらじものとや、思ふらむ。

（3）かかる折にも、あるまじき恥もこそと心遣ひして……。

（4）残しおかじと思ふ反古など、破り捨つる中に……。

⑬その他の助動詞

「たり」（断定）

・接続＝［　体言　］

・活用表

未	用	止	体	已	命
たら	たり と	たり	たる	たれ	たれ

・意味　［　断定　］（――だ、――である）

例　忠盛、備前守たりしとき、

「ごとし」

・接続＝［　連体形・助詞「の・が」　］

・活用表

未	用	止	体	已	命
（ごとく）	ごとく	ごとし	ごとき	○	○

・意味

1［　比況　］（――ようだ、――と同じだ）

2［　例示　］（――ようだ、――など）

例　崩るる音は雷のごとく、上がる塵は煙のごとし。

例　「往生要集」ごときの抄物を入れたり。

「まほし」

・接続＝［　未然形　］

・活用表

未	用	止	体	已	命
（まほしく） まほしから	まほしく まほしかり	まほし	まほしき まほしかる	まほしけれ	○

・意味　［　希望　］（――たい、――てほしい）　例　少しのことにも先達はあらまほしきことなり。

「たし」

・接続＝〔　連用形　〕

・活用表

未	用	止	体	已	命
(たく)たから	たく たかり	たし	たき たかる	たけれ	○

・意味　〔　希望　〕（――たい、――てほしい）

例　わが食ひたきとき、夜中にも暁にも食ひて

「らし」

・接続＝〔　終止形　〕※ラ変型は連体形

・活用表

未	用	止	体	已	命
○	○	らし	らし	らし	○

・意味

〔　推定　〕（――らしい、――に違いない）

例　春過ぎて夏来たるらし白たへの衣ほしたり天の香久山

※「らし」は主に和歌に用いられ、平安時代はすでに古い言葉とされていた。

練習問題　解答

0. 助動詞　「ず」

問一（1）「ず」連用形（2）「ね」已然形（3）「ぬ」連体形・「ず」終止形（4）「ざれ」已然形・「ず」終止形

1. 助動詞　「る」「らる」

問一（1）る（2）られ（3）らるる（4）るれ（5）れ（6）られよ

問二（1）受身（2）尊敬（3）自発（4）可能（5）自発（可能）（6）自発

2. 助動詞　「す」「さす」「しむ」

問一（1）さすれ（2）する（3）させ（4）せ（5）しめ（6）しめよ

問二（1）させ・使役（2）せ・尊敬（3）せ・使役

3. 助動詞　「き」「けり」

問一　①し　②しか　③し　④き

問二（1）「けれ」過去・已然形（2）「ける」詠嘆・連体形（3）「ける」過去・連体形

4. 助動詞　「つ」「ぬ」

問一（1）て（2）つれ（3）つる（4）ぬる（5）ね（6）ぬ

問二（1）「て」未然形（2）「ぬれ」已然形・「ぬ」終止形（3）「に」連用形（4）「つる」連体形・「て」連用形

5. 助動詞　「たり」「り」

問一（1）たる（2）る（3）ら（4）たら（5）たれ（6）り

問二（1）「たり」終止形（2）「ら」未然形（3）「れ」已然形（4）「たら」未然形

6. 助動詞　「む」「むず」

問一（1）「む」連体形（2）「む」連体形・「むず」終止形（3）「め」已然形（4）「うずる」連体形（5）「んずれ」已然形

問二　A意志・已然形　B適当（勧誘）・已然形　C婉曲・連体形　D意志・終止形　E推量・終止形

7. 助動詞　「らむ」「けむ」

問一（1）書かむ　書くらむ　書きけむ（2）見む　見るらむ　見けむ（3）助けむ　助くらむ　助けけむ（4）往なむ　往ぬらむ　往にけむ（5）あらむ　あるらむ　ありけむ（6）こむ　くらむ　きけむ

問二（1）「けん」過去推量（過去の婉曲）・連体形「けめ」過去推量・已然形（2）「む」意志・終止形「らめ」現在推量・已然形（3）「らむ」現在推量（現在の婉曲）・連体形

問三（1）越えているのだろうか

（2）思い出しているだろう
（3）どうしたのだろうか
（4）思われたのであろう

8．助動詞　「べし」

問一（1）べき（2）べかり（3）べけれ（4）べし（5）べく（6）べから（7）べかる

問二（1）当然（義務）（2）意志
（3）可能（4）適当（当然）
（5）推量

9．助動詞　「まし」

問（1）宿を借りようかしら
（2）笑ってしまったならば
（3）昼であったならば
（4）こもりましょうかしら

10．助動詞　「めり」「なり」

問一（1）「める」連体形（2）「めれ」已然形（3）「める」連体形「めり」終止形

問二（1）「なる」伝聞・連体形
（2）「なる」伝聞・連体形
（3）「なり」推定・終止形

11．助動詞　「なり」「たり」

問一（1）「なり」連用形（2）「な」連体形（撥音便の無表記）（3）『木石に』の「に」連用形『なきに』の「に」連用形

問二（1）車であろうか（2）何事であろうか（3）音がするようだ

12．助動詞　「じ」「まじ」

問（1）「まじけれ」不可能（打消推量）・已然形（2）「じ」打消推量・連体形（3）打消当然・連体形（4）「じ」打消意志・終止形